●地域とともに●

明日にむかって

発行／社会福祉法人 陽光会　陽光保育園　編集／陽光保育園「明日にむかって」編集委員会
発行日／2002年8月30日　住所／東京都板橋区大谷口上町23-1　☎03(3956)1068

39号

陽光保育園は終戦直後の青空保育から始めた保育園です。特例・産休明け・障害児・延長保育、アレルギー児、被虐待児への対応など、時代の要求に応え、先駆的に児童福祉の仕事に取り組んできました。その保育への取り組みが、今壊されようとしています。今回都が出した『中間提言』は、「社会福祉法人の運営は非効率的で閉鎖的になりがち」として「福祉サービスに様々な供給主体が参入してくる時代に、共通の土俵の上で競い合いながらサービス向上に取り組むことが必要」と、福祉の市場化をねらい、正規職員人件費の補助金制度の廃止を提言しているのです。この補助金制度があったからこそ安定した職員体制で子どもの発達を保障する保育ができてきたのに、これがなくなると、職員の賃金カットや人員削減をせざるをえなくなり、そうすれば保育水準は後退し、子どもたちに大きな影響を及ぼします。私たちは、子どもを守るために、職員・父母・地域の方と力を合わせ、この『中間提言』を実施させないよう最後まで頑張る決意です。　(T・R)

【地域共育講座】

絵をとおして見る 愛の子育て

6月22日午後7時から、新見俊昌先生をお迎えして開かれた講演会。一六〇名もの参加者があり、陽光保育園のホールは熱気いっぱいに。スライドで見る子どもたちの楽しい絵や、熱のこもった先生のお話にすっかり魅了されて聴き入った二時間でした。感性豊かで意欲的な子どもを育てるためには、どんな羅針盤をもったらよいのか――先生のお話の一部をご紹介します。

◉わが子のステキを見つけて

「お父さん、お母さん方、どう思われますか。世の中に仕事はいっぱいありますが、子育てほど欲の深い仕事は他にないと思いませんか。どんな仕事でも、〝ああ、今日も仕事をやり終えた〟というある種の充足感があるものですが、お父さん、お母さん方、子育てに充足感はありますか。夕方、〝やったぜ〟と思えますか。子どもの〝イマイチ〟のところばかり気になっていませんか。何かひとつのことができると、すぐ次をやらせるなど、上へ上へとひっぱってしまいがちですが、できないことではなく、できること、ステキなものをいっぱい持っていることに気づいてほしいですね」

新見先生のお話はこんなふうに始まりました。そして、子育ては欲張ってはいけない、縦にひっぱるのではなく、横にたっぷり太らせてあげることが大切と続けられました。子どもはその年齢のその時期の力を横にたっぷり太らせていくことによって、質的な飛躍をとげていく。その時期その時期に育てなければならないことがあるのです。

子どもは乳児期の後半、お座りができるようになると手が自由になり、目と手が供応しながらいろいろなものを触って確かめ、やがて道具を使うようになります。子どもの手や指は「突き出た脳」でもあるのです。大脳をみがくには、手、指、足、口などの感覚器官をみがくことが大切です。紙や粘土、あるいは水や砂など変化する素材で遊ぶことでそういった感覚器官はみがかれますが、家でテレビづけだったり、親がなんでもやってしまうと、大脳が育たなくなってしまうのです。

◉子どもの絵は、話を聞くものになります。

描画では、三歳を過ぎると、ひとつの画面に丸（○）をたくさん描くようになります。楽しかった経験を○（マル）に託してお話しします。その話を聞くことによって、大人ははじめて理解し、共感できるのです。

お話をすることで豊かな「はなしことば」を獲得した子どもは、小学校に行くようになってから、豊かな「書きことば」を獲得します。○（マル）に託してお話しする時期に形を強要してしまうと、形にとらわれ、胸の思いを生き生きと語れなくなります。

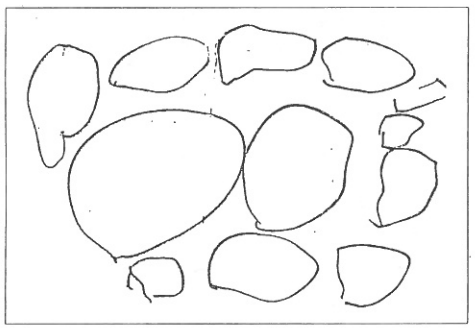
子育てで大事なことのひとつは、一番になることではなく、それぞれの持ち味を生かし、毎日元気に過ごすこと。二つ目は、仲間がたくさんいること。三つ目は、その年齢で最低理解しなければならないことがわかっていること。子育ては、親が子どもを育てるだけでなく、親もいっしょに育つということです。子どもに感謝しながらも、弱いものいじめとか、人間としてしてはいけないことをしたときと、危険なときは、迫力をもって叱ること。逆に、わからないとき、失敗したときは叱らない。失敗しながら大きくなるものだからです。

一人で子育てしていると、あせることもあるでしょう。そういうときは、隣近所の人から知恵をかり、みんなで育てるくらいの気持ちが大切だと、先生は言われました。そして、お母さん方、笑顔でゆったりと、がんばっていきましょうと締めくくられました。

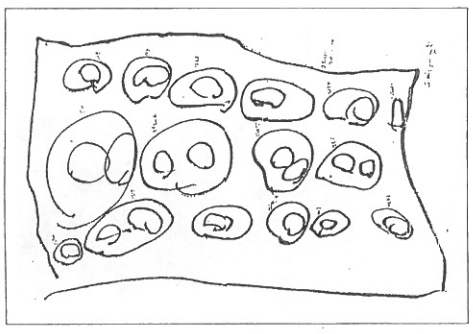
あせらず、子どもの心に寄り添って子育てすることの大切さ、楽しさを改めて教えていただきました。

（保育士　小川恵美子）

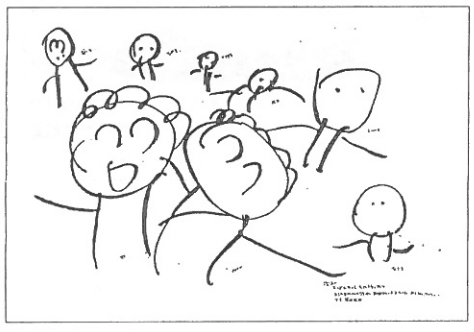
5歳児・男児「すごい楽しい遠足だった。あめんぼ、みんなこっちのほうむいてた！　みんな、あめんぼ見てるの。たかし、水のなか入って歩いてるの(左下)。しょうご、こけて、ふんでね、すべって、洋服ぬれたの」



2歳児・女児「い～っぱい、パパなの」（久しぶりにパパと登園したS子ちゃん。よほどうれしかったんでしょうね）



3歳児・男児「プールで泳いでるの」（楽しそうな子どもたちの顔がいっぱいです）



4歳児・女児「徳島のおばあちゃんちにいったの。ひこうきにのっていった。お母さん、お父さん、みんなはいないの。でも笑ってたの」

●参加者の感想から●

★子どもの絵に対する認識が一八〇度変わりました。（父）

★もう一度しっかり子どもの絵を見てみよう。ゆっくりたくさん生活したいと思いました。（保育士）

★「ぐるぐる丸描き」の中身がこんなに違うとは知りませんでした。子どものなかのイメージのふくらみってすごいですね。普段の暮らし、遊びの充実が必要なのだと改めて思いました。（保育士）

★子どもの成長発達（体・心・絵）を大人がどううけとめ、共感するかが大切だということがよくわかりました。子どもの絵は耳で聴くものだということを実践し、保護者の方にも伝えていきたいと思います。（保育士）

★子どもには無限の可能性と素晴らしい感性があるということを改めて感じました。それを型にはめてしまうか存分に伸ばしきってあげられるかは、周囲の大人の関わり（過干渉にならない適度な関わり）方によってずいぶんと違ってくるもの（ちょっと怖い）と知りました。絵に限らず、子どもの心、声にならない言葉、ただただしくもやっと語られるpureな想いをまっすぐに受けとめて、素直に自分の心と響きあわせられるような親になりたい、と思いました。（3歳児母）

親子でいっしょに遊びましょう

（リズム、うた、砂あそび　散歩、赤ちゃん体操など）

陽光保育園では、地域の乳幼児、お母さんを対象に月1回、「親子でいっしょに遊びましょう」の催しを行っています。同時に育児相談にも応じています。お気軽にご参加ください。無料です。

〔対　象〕　0歳児～5歳児
〔場　所〕　陽光保育園
〔時　間〕　午前9時～11時

●2002年度今後の予定

8月20日(火)	9月6日(金)
9月30日(月)	10月23日(水)
11月6日(水)	12月11日(水)
1月15日(水)	2月13日(木)
3月5日(水)	

●事前にご連絡のうえ、活動しやすい服装でご参加ください。

☎3956－1068

ごあんない

◆陽光保育園運動会
10月20日(日)　9時～
今年は「弥生小学校校庭」で開催

◆バザーのご協力
ありがとうございました
7月7日、今年の夏のバザーも無事終了し、予想以上の売り上げがありました。ご協力いただいた皆様に、心から感謝いたします。なお、冬のバザーは12月1日(日)の予定です。

未来にむけてKIYOSATOで語ってきました

陽光保育園の元理事長の平沢静子さん（1997年4月14日死去）が、長野県清里に遺してくれた土地があります。社会福祉法人陽光会として、かねてよりその土地を見にいく計画を立てていましたが、やっとこの春、バスツアーが実現しました。それも、ただ土地を見るだけでなく、保育園に今求められていること、今後の保育園のあり方を語り合おうということで、「未来にむけてKIYOSATOで語ろう」と銘打たれました。

日程は4月27日～28日の一泊二日、参加者は、理事6名、後援会6名、職員4名、卒園児1名の計17名でした。

行きのバスのなかはもちろん、宿舎「竹早山荘」で夜の更けるまで大いに語り合った、その内容のごく一部をご紹介しておきますと、陽光保育園の保育実践の歴史をまとめる、陽光保育園のよさをしっかり分析し、整理し、理論的におさえる、保育園について保護者がどう理解しているかを知る、法人のあり方としては介護や学童保育などにも広げる必要がある、など語り尽くせないほど多くのテーマが出され、次回以降につなげていくことになりました。

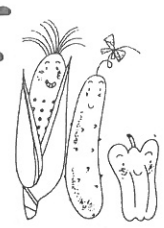
なお、平沢さんの遺してくださった土地は二〇〇坪の緑豊かなところですが、斜面が含まれているため建物を建てるのは難しい感じもしました。今後も何度か足を運び、もっとたくさんの父母や職員に参加してもらい、検討していくことができればと思っています。

（園長　高田礼子）

子育て座談会 ● その2

今こそ大切にしたい 地域の中での子育て

前号で好評だった「子育て座談会」のその2。話はしだいに佳境に入っていきます。子どもは家庭の中だけで育つのではなく、保育園など集団の中で、そして地域の中で育っていくものです。隣近所との関わりが薄くなりがちなこのごろですが、地域の中で子どもを育てるとは……。



出席者

中村幸一さん　陽光保育園父母の会会長
中川　守さん　陽光保育園後援会会長
高田礼子　陽光保育園園長

まずは挨拶を交わすことから

中川　ふだんから心がけていても、ちょっとタイミングを逃して言いそびれたりということもあって、それが人間関係に影響をおよぼすこともありますよね。会社の知り合いが、このごろ中学生の息子が「おはよう」って言っても返事をしてくれなくなったってぼやいていたけど、これも幼児期にどれだけ声かけをしたのか、されたのか、たとえば保育園で「おはよう」「おはよう」と言い合えるような環境があったのかなかったのか、といった違いがあって、子どもが大きくなってから急に挨拶しあおうとしても難しいですよね。

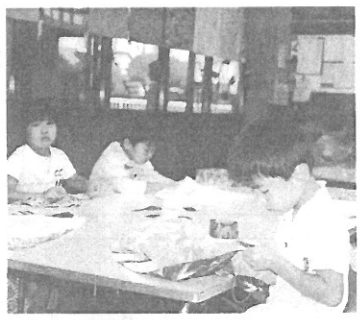
中村　陽光保育園でこのごろ挨拶が少なくなったというわさを聞くんですが……。

中川　そういうことって微妙なところがありますよね。たとえば、「おはよう」って言ったのに返してもらえなかったとか、振り向いてもらえなかったというとき、ほんとうは気がつかなかっただけかもしれないのに、それをしまいこんでしまうと、どんどんもぐっていってしまう。そうではなく、次に気がついたときに「おはよう」と返せばそれは修復されていくわけで、だから挨拶する機会さえあれば誤解も生じにくくなっていくと思うんですが……。ふだんから挨拶が飛び交う保育園であれば、誤解を生む確率はすごく減るし、挨拶しやすいですよね。挨拶が自然に飛び交っていると、すれちがいも減って、お母さんたちが孤立しないですむし、お母さんが孤立しなければ子どもも孤立しないですよね。

あひる組（2歳児クラス）のお昼寝前のひととき。Hちゃんが椅子の上に積み木を積みはじめるとSちゃん、Kちゃんも加わって3人でチームワークよく重ねていく。崩れても、穴の開いたところにそーっと置いて、元どおりに重ねていく。とっても楽しそうで、寝る時間になって崩すのが惜しいくらいでした。

高田　まだ小さい子が大人より先に「おはよう」なんて言うことがあるけれど、それは、親が「挨拶しなさい」って言うから挨拶しているだけで、それでいて親のほうは挨拶もしないっていうのはおかしいですよね。挨拶は強要するものじゃなくて、むしろ親が自然に挨拶を交わすのを見て子どもも育つんだと思います。

中川　挨拶は人間関係の基本かもしれませんね。うちの子どもたちが、今でもごく自然に「ありがとう」とか「いただきます」「いってらっしゃい」と言うのは、やはり、小さいころそういう環境で育ったからで、子どもが自然に挨拶の言葉を言えるかどうかは、その子の環境を示すバロメーターといえるかもしれませんね。



かもしか組（5歳児クラス）はお泊り保育（7／17～19）に向けてみんなで裁縫。衣類などを入れる大きい袋を作りました。

地域で育つ子どもたち

高田　私が保育園に来るときいつも通る道に、いつも会うおばさんがいて、毎日挨拶を交わすんですよね。今日は暑いとか寒いといった程度のことなんだけど、そういったことが保育園に思いを寄せてくれるひとつになったりということはあると思います。そういった意味でも地域とのつながりはとても大切ですよね。いろいろな人の手で育ててもらうというのは、保育園だからこそと思うし、いろいろな大人と触れ合うことで大人に対する信頼感も生まれるし、そういう人がたくさんいるなかで育つというのは、子どもにとって大きいですよね。大人が挨拶ひとつから心を開いて仲間を求めていく力になりますね。

中村　そういう環境づくりは大人がしなければならないことですよね。大人同士が孤立しない輪をつくっていくことですよね。ぼくは下町育ちだったので、いつも誰かが見ていてくれて、ぼくが悪いことをしたら、全然知らないおやじが怒ってきて、そしたらそれは○○君のお父さんだったなんてことはよくありました。そういう関係が今あまり地域になくなっているんだけど、たとえば陽光保育園を中心にして輪が広がっていったりするといいですね。最初は陽光保育園の近辺だけでも、それが大人のつながりでどんどん広がっていくとすばらしいですよね。そうすれば、子どもが家に帰って外に遊びにいったりしても、誰か知ってる人が見ていて安心ですよね。そういうのって難しいんですかね。

中川　難しいというより下手なだけじゃないかな。てれくさいというのもあるだろうし……。

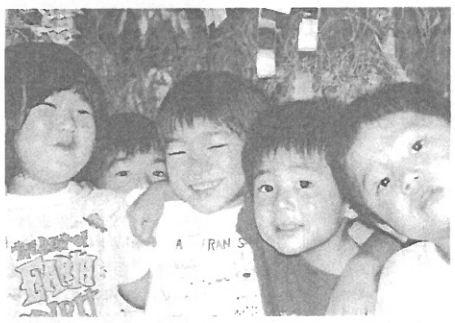
高田　保育園ではいろいろな行事があるので、そういう行事に参加することで、親同士のつながりがでてくるし、その積み重ねが大切だと思います。

中川　街で偶然出会って、陽光のお父さんだなってわかって、「あっ、どうも」って声がかけられれば親近感がもてるし、酒でもいっしょに飲めるようになればもっと近しい関係になれるし、そういう意味では後援会の交流会なんかはいいチャンスなんじゃないかな。ある意味で世代を越えたつきあいができますよね、四○代のお父さんもいれば二○代のお父さんもいるわけだから……。この街のなかで、保育園に子どもを預けているという共通点を持っているということは、新しい地域の形成になるんじゃないかという気がするんですが。

高田　保育園は子育てのいちばん初めの段階でしょ。子どもとの関係も大人同士の関係も、みんな歩みはじめるときだから、なかなかうまくいかないこともあるけれど、六年間なら六年間というあいだにクラスとしては仲良くなってほしいし、それはその後の宝にもなると思うんですよね。子どものことを相談するにしても何にしても、親同士のつながりは一生の宝といえると。そういう意味では保育園で働いている保育士たちの役割もすごく大きいと思いますね。

中川　道に迷ったときに戻る場所があるということが、大人にとっても子どもにとっても大切ですよね。

（つづく）



七夕集会（7／9）のとき、新しく入園した2組のきょうだいが紹介されました。七夕の飾りはもちろんみんなで飾り付けました。

お父さんの出番です!!

"おやじとしてできること"

陽光保育園にお世話になってはや11年。のらりくらりとかわしてきましたが、ついに登場です。

0歳から陽光保育園に入園した長女は、今ではイケてる小学5年生（この前、あこがれの"モーニング娘。"の妹分のオーディションで落ちましたが）。その長女がどんぐり組（0歳児）のときの担任が、なんと高田園長先生！（高ちゃん、お世話になっています）。長男の駿丞も、もうかもしか組（5歳児）。まずは妻に、雨の日も風の日も、日大病院の坂を子どもを乗せて毎日自転車で送り迎え、ご苦労さま。感謝しています。

さて、私は今までは妻まかせで、ほとんど送り迎えをしていませんでしたが、妻の職場の体制が変わり、時々送り迎えをしなくてはいけなくなり、駿丞の保育園での生活が少しわかるようになりました。

朝、一緒に保育園に行くと、さすがはかもしか組、自分でリュックから荷物を出し、準備をします。えらい！（妻の話だと4歳児まではやってあげていたそうです）「じゃあ、パパは行くね」というと、急に目にうっすらと涙を浮かべ、悲しそうな顔をします。べつに保育園が嫌いというわけではなく、本人いわく「別れるとき悲しくなっちゃう」らしいです。こんな姿を見せるのは、今だけなんだろうが……。

あるときお迎えにいくと、広告の紙で剣を作って友達と戦ったり、コマを回したりしていました。私がそのコマを貸してもらって回してみると、小学校以来なのにしっかり身体は覚えていたようで、手のひらに乗せたり、綱渡りをしてみたり……。それからというもの、お迎えにいくと、かもしか組の子どもたちが飛んできて、「コマを回して」というようになりました。そんなときの駿丞の顔はちょっと誇らしげ（遊びは、パパにおまかせ！　いろいろ教えてあげるよ。……べつに他意はありません。早く20歳になって、酒飲みにいこうね、二人で……）。

「おやじとしてできること」をあれこれ考えましたが、私は家では『いちいち細かいことは言わない』（うるさいことはママにまかせ）。but、言うときにはガツンと言います。おやじが細かいことを言っていると、一言の重みがなくなりそうで。そして『約束は必ず守る』。駿丞と何か約束するときには、「男と男の約束だよ」と、親指と親指で指切りします。男として言ったことは必ず守らせるようにしています（長女にはけっこう甘かったりして）。それから『言いたいことははっきり言う』。親子でもはっきり自分の意見を言わせるようにしています。たとえ叱られているときでも、違うものは違うとはっきり言ったほうがいいと思います（親の勘違いもあるかもしれないので）。我が家では、妻、長女、そして駿丞も（意外?）、みんなはっきり言います。ケンカもしますが、そんなのはコミュニケーションです。駿丞は外ではまだまだ自分を出せず、人の顔色を見ながら自分を抑えているようですが、いつかは、自分の意見や考えをはっきり自分の言葉で言える男になってほしいと思います。

話は変わりますが、最近の駿丞はワールドカップの（親の?）影響でサッカーに興味を示し、私が仕事から帰ると、「サッカーやろうよ」と言ってきます。そんなときは近くの公園に行き、「こうやって蹴るんだよ」と教えてあげると一生懸命練習しています。そんな姿を見ていると、自分も子どものころ、親父にキャッチボールをしてもらったことを思い出します。俺も"おやじ"になったんだなあと感じる今日このごろです。

ワールドカップ、日本代表、ベスト16、おめでとう!!

2018年、かもしか組も21歳。代表チームに駿丞が……。

（5歳児クラス・駿丞の父　高橋義徳）

◎ひまわり基金ご協力ありがとうございます
（2001・4・1～2002・3・30／敬称略・順不同）

●個　人　石原博道・田辺弘子・古橋秀信・田中忠道・星屋正晴・三森康正・石井十郎・三吉公介・菅井政代・高久ますみ・一條真紀子

●団体他　職員有志・後援会有志・うたとリズムの会・さくらんぼ共同購入